

事務事業名		さの秀郷まつり開催支援事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	3 魅力と活力ある産業づくり					担当組織	担当部	観光スポーツ部	担当課	観光立市推進課
	政策	2 観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり					担当係	観光立市推進係	担当課長名	小野 勉	
	施策	1 ひとを集める観光戦略の展開					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1 総合的な誘客を図る観光戦略の推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	10716	一般	7	1	3	さの秀郷まつり開催支援事業					
	事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業		任意的事業・義務的事業		任意的事業		
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	5年度～ 年度		根拠法令 条例等	実施方法		一部委託			
	事業区分		事業分類		支援事業		リーディングプロジェクト		該当		
	事業区分		市長マニフェスト		該当なし						

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)					
さの秀郷まつり運営委員会に補助金を交付し、さの秀郷まつりの運営を委託している。 ※さの秀郷まつり運営委員会は、さの秀郷まつりを円滑に運営するために、市内各団体、佐野商工会議所、(一社)佐野市観光協会、市職員等で組織している。 ※さの秀郷まつり実行委員会は、運営委員会委員から推薦されたもので組織され、各イベント部会を組織し、祭り実施に向けての準備、当日の祭り運営を行う。	(市の活動)運営委員会に補助金を交付する。 (事業費の内訳)7,440千円 (運営委員会の活動)まつり開催のため、検討委員会、運営委員会、実行委員会を開催する。 (実行委員会の活動)各イベント部会を組織し、協賛依頼、各種申請、広報宣伝、会場設営、当日の各種イベント運営、会場清掃、片付け等を行う。					
活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
会議開催回数	回	30	30	30	30	30
現場作業	日	60	60	60	60	60

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市民及び市外の観光客(補助金対象団体) さの秀郷まつり運営委員会	対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
	市民及び近隣住民	人	350,000	350,000	350,000	350,000	350,000

目的 ③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

①市民の活動の場とする。 ②市民の郷土愛を育む。 ③中心市街地の活性化。 ④商工業の活性化を図り、産業の振興に寄与する。 ⑤佐野市のPR	成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
	まつり来観者	人	140,000	60,000	140,000	140,000	140,000

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

国内に居住する人に本市の魅力を知ってもらう。	上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
	ロケ誘致件数	件	37	42	45	50	55
	コンベンション事業数	事業	8	8	6	7	8

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円	3,911					
	一般財源	千円	3,529	7,440	7,440	7,440	7,440	
	事業費計(A)	千円	7,440	7,440	7,440	7,440	7,440	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			補助金	7,440	補助金	7,440	補助金	7,440
	人件費	人	130	130	130	130	130	
のべ業務時間	時間	2,700	2,700	2,700	2,700	2,700		
人件費計(B)	千円	10,506	10,641	10,641	10,641	10,641		
トータルコスト(A)+(B)	千円	17,946	18,081	18,081	18,081	18,081		

事務事業名	さの秀郷まつり開催支援事業	担当部	観光スポーツ部	担当課	観光立市推進課	担当係	観光立市推進係
-------	---------------	-----	---------	-----	---------	-----	---------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成5年に、それまでの七夕まつりを引き継ぐ形で開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	経済の悪化に伴い、駅前商店街が中心で行っていた七夕まつりを引き継いだ。開始当初は市民総参加をうたい、多くの市民を動員したが、経済不況による資金不足により参加できるイベントを縮小している。第16回(平成20年度)から、まつりの目玉として秀郷流流鏝馬を導入している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	伝統を引き継ぎつつ、マンネリ化しないようなイベントを企画する必要がある。より多くの市民が関わられるようなまつりにすることが重要。大勢の方が清掃に参加し、行政と市民の協働が感じられた。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	民間団体と連携を強化し、意見やアイデアを取り入れ、新たなイベント等を開催し、来場者増に努めた。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	本市に縁のある秀郷流流鏝馬を柱とした伝統的な催事や市民団体によるステージイベント等を行い、市民の郷土愛を醸成する。また、さのまる等、本市の新しい魅力を活かしたイベントを行い、多様な層の観光誘客を図るため、政策体系と結びついている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	委ねられる・委ねられる可能性がある	理由・改善案	市主体で事業を行っているが、現在、各市民団体に一部イベント等を委託している。今後も、事業目的の一つである、市民参加の観点から、委ねられるイベントについては、市民団体に委ねていく。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	対象を見直す必要がある	理由・改善案	更なる市民団体との協働が図れれば、事業効果が高まる可能性がある。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がかなりある	理由・改善案	市民との協働において、成果向上の余地がある。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業があり統合・連携できる・している	理由・改善案	類似事務事業名 どまんなかフェスタ・くず原まつり・ためまふるさと祭り それぞれ、地域に根付いた祭りであり、統合は難しいが、連携は出来る。
	* 類似事務事業があれば、名称を記入			
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	市の補助金だけでなく、協賛金を募って運営されているが、現在の事業規模から削減することは出来ない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求めない	理由・改善案	市民全体を対象としているので、受益者は特定されず、負担を求める必要がない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)			
	・佐野市を全国にPRし、また、市民との協働をする必要が無くなった時。 ・事業主体が民間団体になった時。			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																				
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 事務局に市民団体を入れる。 新規イベントの開催、既存イベントのブラッシュアップ。 当日運営にボランティアスタッフの更なる動員。 他祭り実行委員の実行部隊との協働。 協賛してもらうための新たなアイデア。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	向上	○			維持			×	低下		×	×	行政主体では限界があり、更なる市民との協働が必要となってくる。そのためには市民に祭り意義等の啓発が重要である。 ボランティアスタッフ等を起用し、啓発を兼ねて効率的な運営を行い、将来的には、行政市民一体となった祭り運営を行うことにより、成果向上・コスト削減につながる。
	コスト																					
	削減	維持	増加																			
向上	○																					
維持			×																			
低下		×	×																			